

## 2022 年度「アメリカ短期派遣プログラム報告書」

地域環境科学部・生産環境工学科・3 年・中埜涼介

### 1. 当初の目的

本プログラムに参加した目的は主に以下の 3 つであった。

#### 1. 実践的な英語力を身に着ける

私は過去、4 回ほど語学留学を経験している。さらに回数を重ねて自信を持って英語を使いこなせる様になりたいと思うようになった。また、今まで語学学校の基礎的な英語しか知らなかったのでアカデミックな世界で使われている英語に触れてみたいという思いがあった。

#### 2. 米国と日本の農業の違いについて学ぶ

私は過去に行ったことがある、日本との関係が深い、世界最大の経済大国である等の理由から、米国にとっても興味がある。私が現在学んでいる日本の農業との違いについて、実際に目で見て知りたいと思った。

#### 3. 国際的に活躍できるリーダーシップを身に着ける

私は日本だけでなく、国際的に活躍できるような人間になりたいと考えている。本プログラムで経験を積み実績になるし自信にもつながると考えた。

### 2. 目的達成のために現地で活動した内容

本プログラムは、ミシガン州立大学 (MSU) にて二週間、(1) 大学での英会話の講義、(2) 英語での専門的な講義、(3) 大学関連施設での実際の農業の様子の見学を中心に行われた。具体的な活動内容を以下に抜粋する。

**1 日目：**13 時間のフライトを経て Detroit Metropolitan 空港に到着した。入国審査があり、滞在目的を勉強と答えてしまったため就学ビザの規定について質問を受けた。授業時間等を聞かれたが把握しきれていない部分もあり、別室に移動し、さらに質問を受け 30 分程度拘束された。待合室のような部屋にカウンターがあり、両サイドには取調室のような部屋があった。プログラムを見せたら誤解が解け、車で 2 時間ほどでホテル Townne Place Suites に到着した。ホテルの近くにはピザ屋、中華、寿司、インド料理などがあり、ピザ屋に入った。日本のピザの 3~5 倍ほどの厚みがあるピザを注文した。

**2 日目：**車で 10 分ほどで MSU のキャンパスに到着した。今回のコーディネーターを務めてくださったロンダさんに対して自己紹介をした後、ミシガン州立大学と農学部についての基礎的な説明を受けた。キャンパス内を案内して頂き、時計台、大教室、The rock (MSU の伝統) 等を見学した。ビュッフェスタイルの学食で昼食をとった。ハンバーガー、ピザなどのアメリカンな食事だけでなくアジアンフードもあり種類が豊富だった。午後はアジア食品店でシチューのルー等を購入した後、地元のハイパーマーケットである Meijer を訪れた。日本のスーパーマーケットの 2 倍以上の売り場面積があり、食料品や日用品だけでなくペットショップやホームセンターも兼ねていた。ホテルに帰り、学生全員でホテルのキッチンを利用し、シチューを作って食べた。

**3日目：**英会話講義の初回があった。英語でのメールの書き方を教わり、先生にメールする宿題が出た。次に農大とも関わりが深い Dr. Murari によるアメリカと日本の農業を比較する講義があった。自分が住んでいる国のことをもっと知らなくてはいいと感じた。初日とは違う学食で昼食をとった後、MSU Dairy Cattle Teaching and Research に向かった。生後まもない牛から 10～12 年経つものまで約 200 頭乳牛が飼育されていた。横腹に穴が空いていて機械をつけられていたのが衝撃的だった。夕食は Meijer で購入したパスタを作った。

**4日目：**まず、英語の講義があった。この日はサブウェイ等の飲食店での注文を練習した。Mass Timber という建築様式についての説明を受け、その後実際に建物を見学した。フードコートで昼食をとった。英会話の授業でオーダーの方法を教わった、サブウェイを注文した。先生に勧められたバナナペッパーというトッピングを試したが、口に合わなかった。

午後は米国の歴史についての講義を受けた。基礎的なことは知っていたが、意外と知らなかったことや現在米国が抱えている問題などを知ることができて興味深かった。その後、フットボールのゲームが行われる Spartan Stadium と、スケートリンク、バスケットコートを見てまわった。最後にマーチングバンドの練習を見学した。

**5日目：**英語の授業の後、office for Education Abroad の方と交流をした。沢山のプレゼントを頂き、MSU の学生が訳した日本語新聞を見た。昼食は Mass Timber でサンドイッチをテイクアウトした。午後は ADREC facilities (Anaerobic Digestion Research and Education Center) を訪れた。農学部の建物全部の電力を一手に賄っている施設で、微生物だけでなく Meijer から廃棄の卵も受け入れてエネルギーにしていた。

**6日目：**Spartan Stadium にてフットボールゲームが開催された。ホームだからか、ほとんどの観客が MSU カラーの緑を着ており、熱気も大学スポーツとは思えないほどだった。この日の試合は Akron に 52-0 で圧勝していた。スタジアム内では飲食の販売もあり、ホットドックを買って試合中に食べた。夕食は外食を試みたものの、土曜日かつゲームの日の夜遅くということもあり、開いていない店がほとんどでありセブンイレブンでカップラーメンを買った。

**7日目：**車で 3 時間かけて Traverse City に向かった。ホテルに到着し、プールサイドでピザパーティーがあり初日は終了した。

**8日目：**Northwest Michigan Horticulture Research Center (NWMHRC) に向かった。ここではチェリーの研究をしておりパイを頂いた。トラクターでセンター内を見学した。ブドウ等も栽培されていた。地元で有名なハンバーガー屋で昼食をとった後、スリーピングベア国立公園に向かった。青く見えると言われる Glen Lake は雨でよく見えなかったが、Sleeping Bear Dunes に着くと雨がやみ砂丘を登ることが出来た。夜はダウントウンで土産物を買ひ、ホテルのプールを利用した。

**9日目：**MSU の卒業生が経営している Leelanau Cheese に行った。チーズ作りの様子を見学させてもらった後、熟成の様子も見せていただいた。その後は Black Star Farms に向かった。ここではブドウの栽培からワインの醸造まで一手に行っていた。ワインの飲み比べが出来るようになっており、スパークリングを頂いた。道中、世界

最大の Meijer に立ち寄り、East Lansing に戻った。

10 日目：英語の授業の後 Greenhouse の見学をした。寮内に都市型の農園があり、栽培の様子などを見学した。学食にて世界学生サミット (ISS) に参加する MSU の学生と交流した。午後は Student Organic Farm に向かった。学生が実際に育てている野菜や、黄色と赤色のスイカを頂いた。この日は自由時間が多めであり 7\$ でブリクラをとり、MSU 近くの Graduate hotel に移動した。屋上にある Rock bar で夕食をとった。中には MSU の伝統である The rock を模したと思われるオブジェがあった。

11 日目：英語の授業はゲームが中心だった。遺伝子組み換えに関する録画授業があった。学食にて Dr. Murari との会食が行われた。午後は MSU に来て初めての学内での自由時間があった。MSU BOARD ART MUSEUM を見学した。新国立競技場案を手がけた ZAHA HADID の展示会が行われていた。斬新なデザインばかりだった。夜は Farewell Dinner があり近所のお店のバーベキューや佐々木先生による焼き鳥などを楽しんだ。12 日目：最後の英語の授業があった。この留学中の出来事を全員でプレゼンした。自由時間にて自然科学系のミュージアムを見学した。化石や地球型ディスプレイなどがあり興味深かった。空港近くのホテルに移動し、翌朝出発、帰国した。

英会話の授業ではお店での注文や英文メールの作成等実践的な英語を学ぶことができた。一方的に講義を受けるだけでなく、話す練習を十分にすることができた。

英語での講義は基礎～中級程度の語学の講義しか受けたことがなかったので、専門的な講義を英語で受けることはとても新鮮でいい刺激になったと思う。

米国と日本を比較してあらゆる面で規模が違うと感じた。日本は限られた土地を有効活用するのに対し、米国では広大な土地を活かした大規模生産が中心であった。

今回のプログラムで、私はリーダーを務めた。初めての経験だったので戸惑うことも多かったが、自信がついたと思う。

### 3. 目標達成度の自己評価

今回の留学を通じて、上に掲げた目標の一部は達成できたと思う。店や学校、ホテル等での基本的なやり取りは難なくこなせるようになったが、専門性の高い会話となると理解できない部分も多く壁を感じた。話のスピードについては、最初はその速さに戸惑ったが二週目になるとだんだんと慣れていった。もっと積極的に質問をしたいと思ったが言語化が難しく壁を感じる部分もあった。

日本と米国の違いを知る前に日本の農業のことをもっとよく知っておくべきだったと感じた。

アメリカの人ははっきりした人が多いと感じた。リーダーには思い切りのよさや決断力が必要であり、そこが不足していることを今回の留学で何度か感じた。このプログラムを通じて広がった視野を生かしてより良いリーダーになりたいと思った。

### 4. 今後の取り組み

今回の短期留学で、海外の大学で学んでみたいという気持ちが生じた。ミシガン州立大学の校風、環境、研究内容が自分にあっていると感じたので、MSU への留学を視野に入れて調べていきたいと思った。今回の講義や説明で、専門用語を聞き取ることが難しかった。農学に関する専門的な用語をしっかりと学んでおきたい。

また、20 代のうちにアメリカ合衆国 50 州の制覇を目標としており、今回の留学と

春休みで3州達成したので、残りの州も行ってみたいと思う。

## 5. その他

(ア)持っていって良かったもの

水着・フロート：トラバースシティのホテルにはプールがあり、自由時間中は自由に使用することができた。

長袖のシャツ・羽織るもの：9月は日中は非常に暑いですが、朝晩は冷え込む。

サングラス：日中は日差しが強く、特にフットボール観戦中は必須。

(イ)用意したがいらなかったもの

フォーマルな服装：社長との面会が中止になり不要になった。

シャンプー・ハンガー：ホテルの備え付けのものを使用できた。

PC：授業ではノート・スマートフォンがあれば対応可能

(ウ)現地で使用したお小遣いの金額

食費（朝・昼は含まれるため夜のみ）：80 \$

お土産代：396 \$

交通費（電動キックボードレンタル）：17 \$

## 6. 次年度以降の参加者へ

(ア)事前に準備した方がよいこと

自分の専攻・勉強している内容・興味のあることを英語で話せるようにしておく。

プログラムに目を通していき、入国審査の時に何か聞かれたら見せられるようにする。

(イ)勉強しておくべきこと

農業に関する専門用語を英語で理解できるようにしておくこと。今回はそれが不十分だった為、十分に理解しきれなかった部分があった。



DAY1 で訪れたピザ屋



The rock



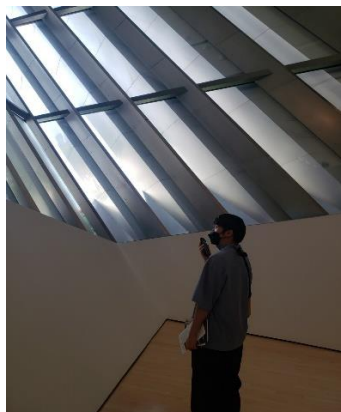
Dairy Cattle Teaching and Research

スケートリンク



Spartan Stadium

ADREC facilities



Leelanau Cheese

BOARD ART MUSEUM

Graduate Rock bar